

優しさという力が、ある

第52回台湾金馬獎  
最優秀オリジナル主題歌賞受賞  
最優秀脚色賞・最優秀新人賞ノミネート

第17回  
台北映画祭  
観客賞受賞

第26回  
シンガポール国際映画祭  
オープニング作品

第8回  
インドCMS国際子ども映画祭  
最優秀長編映画賞受賞

# 太陽の子

Wawa No Cidal

静岡-台北便 週4便(火・木・金・日)運航中

CHINA AIRLINES

チャイナエアラインより  
参加者の中から抽選で1名様に  
静岡-台北往復チケットを  
プレゼント!

台湾でいちばん美しい村の物語  
わたしは強い——  
ふるさとがあるから、

上映会&トークショー

9月11日(日) 14:30~17:30

サールナートホール (静岡市葵区御幸町11-14) 定員/200名

スペシャルゲスト/主演女優 アロ・カリティン・パチラルさん  
ジャーナリスト 野嶋 剛さん

上映会開催にあたり資金協賛を  
クラウドファンディングで募集中



監督・脚本: チェン・ヨウチュエ (鄭有傑) / レカル・スミ (勒嘎・舒米) 出演: アロ・カリティン・パチラル (阿洛・卡力亭・巴奇辣) / シュー・イーファン (徐詣帆)

2015年/台湾/中国語・アミ語/カラー/99分 原題: 太陽の子 日本語字幕翻訳: 黒木夏兒 協力: 台湾映画同好会 日本上映権授権者: 野嶋剛

Ado Kaliting Pacidal Dongi Kacaw Rahic Kulas Kaco Lekal Bokeh Kosang Presented by Filmosa Production Producer CHENG YU-CHIEH Screenplay - Director CHENG YU-CHIEH/LEKAL SUMI CILANGASAN  
Production Manager HSIEH CHUN-YAO Director of Photography LIAO CHING YAO Gaffer HAKER CHU Production Designer WU JO-YUN/LAI HSIANG-KUEI Costume and Make-up Designer DONGI SAWMAH CIWIDIAN  
Director of Sound TU DUU-CHIH Location Audio Mixers TU TSE-KANG/TU CHUN-TANG Music SUMING Editor LIU YUE-XING/CHENG YU-CHIEH/LEKAL SUMI CILANGASAN © Filmosa Production



# 海稲米、その奇跡の復活を信じて——

台湾の先住民・アミ族のパナイは、台北のテレビ局に勤める女性ジャーナリスト。

ある日、地元花蓮の集落でパナイのふたりの子供・ナカウとセラと暮らすパナイの父が病に倒れる。

看病のため帰省したパナイが目にしたものは、一面の荒れ田とそこに持ち上がった大型ホテル建設計画だった。

雇用創出や観光収入を期待する賛成派と、先祖伝来の土地を失うことを心配する反対派、

そして、村に仕事があれば母親が帰ってくるかもと期待する子供たちと、

部族の伝統でもある稲作を守りたいパナイの父。

開発か、伝統か。二つに割れてしまった家族、そして、故郷の人々。

漢民族化が進み、言葉や伝統を失いつつあった先住民の誇りを、取り戻したい——

自分の名前(パナイ=稲穂)の由来でもある伝統の米「海稲米」の復活にすべてを賭け、

パナイは故郷に戻る決心をする。



実話をもとに映画化され、  
2015年の公開後、  
台湾社会に感動を巻き起こした  
家族と故郷の再生物語

作品の舞台は台湾・花蓮の先住民・アミ族が暮らす港口集落。美しい海岸線に張りつくように広がる棚田とそこで作られる伝統の米「海稲米」が復活する様子を、2年の歳月をかけ捉えたドキュメンタリー作品「海稲米的願望(原題)」(13・未)を映画化したのが、『太陽の子』である。監督は『シーディンの夏』(01)、『一年之初』(06)、『ヤンヤン』(09)などのヒット作で知られるチェン・ヨウチュエ(鄭有傑)と、「海稲米的願望」の監督であり本作が長編デビュー作となる、この物語の実際の主人公であるアミ族の女性の息子・レカル・スミ(勒嘎・舒米)の2人。

ヒロイン・パナイを演じるのは本作が映画初出演となるアミ族の歌手アロ・カリティン・パチラル(阿洛・カカ亭・巴奇辣)。また、『セデック・バレ』(11)で日本人と先住民の板挟みとなり苦悩する花岡一郎を演じたシュー・イーファン(徐詣帆)がホテル開発者側の人物を、『KANO〜1931海の向こうの甲子園〜』(14)で上松耕一(ショート)を演じたジョン・ヤンチェン(鍾硯誠)がアミ族のアイデンティティと職責のはざままで揺れ動く青年を好演している点も見逃せない。

台湾では2015年に第17回台北映画祭にてプレミア上映され観客賞を受賞。また、一般公開後は台湾社会に感動を巻き起こし、第52回台湾金馬奨(15)では複数部門にノミネートされるなど高い評価を得た。さらに、第26回シンガポール国際映画祭(16)でオープニング作品として上映され、インドの第8回CMS国際子ども映画祭(16)では最優秀長編子ども映画賞を受賞。またアミ族出身のアーティスト・スミン(舒米恩)による映画主題歌「不要放棄」が、第27回金曲奨最優秀楽曲賞(最佳年度歌曲奨)(16)と第52回台湾金馬奨最優秀オリジナル映画主題歌賞(最佳電影原創歌曲奨)をW受賞するなど、今なお世界各地で称賛の声が広がる注目作が、ついに日本にやってきた!

## 太陽の子 *Wawa No Cidal*

監督・脚本:チェン・ヨウチュエ(鄭有傑)、レカル・スミ(勒嘎・舒米) 製作:チェン・ヨウチュエ(鄭有傑) 撮影:リャオ・ジンヤオ(廖敬堯) 音響:ドワー・ドワージ(杜篤之) 音楽:スミン(舒米恩) 主題歌:「不要放棄」(作詞/作曲:スミン)  
出演:アロ・カリティン・パチラル(阿洛・カカ亭・巴奇辣) / ウー・イェンズー(吳燕姿) / リン・ジンジュン(林嘉均) / シュー・ジンツァイ(許金財) / シュー・イーファン(徐詣帆)  
2015年 / 台湾 / 中国語・アミ語 / カラー / 99分 原題:太陽的孩子 日本語字幕翻訳:黒木夏兒 デザイン:秋山京子 協力:台湾映画同好会 日本上映権授権者:野嶋剛

9月11日 14:00開場 / 14:30開演 < 上映会約100分  
歌唱・解説・トークショー約60分 >  
一般 / 1,500円 ※500円相当のお土産付 学生・台湾人 / 500円

【申込方法】Facebookページにてご確認ください [www.facebook.com/shizutai/events/524202014443967/](http://www.facebook.com/shizutai/events/524202014443967/)  
【お問い合わせ先】I Love しずおか協議会 事務局 TEL:054-252-7720 FAX:054-252-7721



【主催】I Love しずおか協議会、静岡-台湾 交流会 [協賛] チャイナエアライン [後援] 台北駐日経済文化代表処、台湾観光局/台湾観光協会  
【協力】一期一會映像製作有限公司、野嶋剛(日本非営利上映権授権者)、サールナートホール